

# 地域のまちづくりに関する施策の提案

## 産業・経済・交通 編



## テーマ「産業・経済・交通」

### 1 現状と課題

#### (現状)

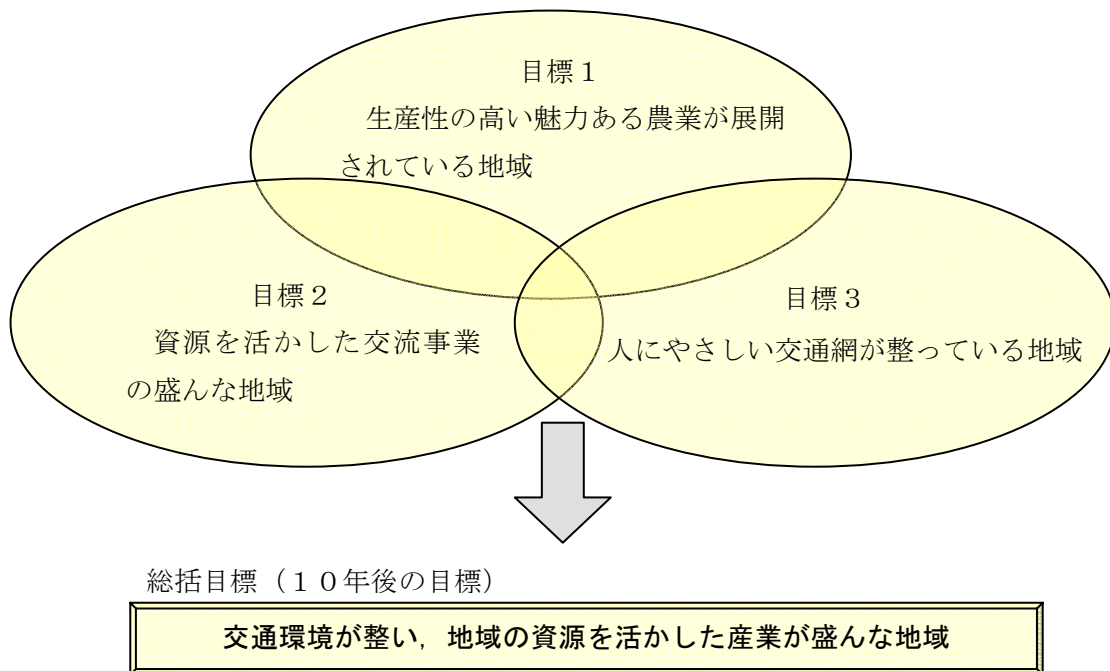
- ① 稲作のほか、いちごやゆずなどの特産物があるが、商品化・ブランド化されていない。
- ② 農業が盛んであるが、観光資源としてあまり活用されていない。
- ③ 水と緑などの自然環境に恵まれ、歴史と伝統に育まれている地域である。
- ④ 幹線道路の一部に狭隘な区間や、生活道路の一部に歩道未整備の区間がある。
- ⑤ 地域内に、地域路線バスやデマンドタクシーが運行されている。

#### (課題)

- ① 地域特産物を活用した商品開発を行い、差別化を図る必要がある。
- ② 観光農園などを充実させ、観光まちづくりと連携を図る必要がある。
- ③ 地域資源を活かした交流事業により、観光をより推進する必要がある。
- ④ スマート I C の利便性を活用し、地域の活性化を図る必要がある。
- ⑤ 公共交通機関の利便性の向上を図り、生活拠点機能を高めていく必要がある。

### 2 10年後の目標

地域の現状と課題を踏まえ、3つの目標を掲げたうえで、10年後の目標を「交通環境が整い、地域の資源を活かした産業が盛んな地域」に決めました。



## 方 策

10年後の目標を実現するために今後進めるべき5つの方策

交通環境が整い、地域の資源を活かした産業が盛んな地域

目標1 生産性の高い魅力ある農業が展開されている地域

### 方策1 地域農産物を活かした農業の充実

・米、ゆず、いちごなど地域農産物の生産拡大と、生産・加工・販売まで行う6次産業化を推進し、収益性の高い農業を展開し、意欲ある担い手を確保・育成に繋げ、持続可能な農業を実現する。

また、遊休地などを観光農園や貸し農園に活用し、観光資源化することで、観光と連携した農業と地域の活性化を推進する。

目標2 資源を活かした交流事業の盛んな地域

### 方策2 地域資源を活かした観光の推進

・国道293号、主要地方道藤原宇都宮線などの地域の道路基幹軸や、スマートICを有する交通利便性と、温泉・祭・郷土芸能などの地域資源を活かし、農業と連携した観光資源化を推進するとともに、サイクルスポーツ環境の整備を促進し、交流人口の増加による地域活性化を推進する。

目標3 人にやさしい交通網が整っている地域

### 方策3 地域内道路網の整備と地域内交通の利用推進

・地域内の狭隘道路や歩道未設置などを解消するため、計画的な整備を促進する。  
また、地域路線バスとデマンドタクシーの運行にあたっては、利用者の視点に立った見直しを行い、利便性の高い運行体系を構築し、安全で住みやすいまちづくりを推進する。